

畜産試験場だより

No.30

《畜産試験場で飼養されている鶏》

畜産試験場では有用な品種をベースに付加価値の高い肉用鶏、採卵鶏の作出について試験研究を行っています。

今年の干支（酉）にちなんで、試験場で飼養されている鶏をご紹介します。



栃木しゃも

畜産試験場が開発した高品質肉用鶏
肉質はコクと適度な歯ごたえがあり好評



アロウカナ

南米のチリ アロウカ地方原産
緑色の卵を産む



軍鶏

タイから日本に渡来
闘鶏として有名



白色レグホーン

地中海沿岸原産、米英国で改良
卵用鶏の代表的品種で白色の卵
を産む



プレノール

フランスの地鶏
フランス料理の食材とし
て定評がある



ロードアイランドレッド

米国で作出
赤褐色の卵を産む



烏骨鶏

中国原産といわれている
古くから美容と健康維持食材と
して珍重されている

今月の内容

1. 畜産経営におけるパソコン活用について
2. 堆肥の塩類問題について
3. 豚人工授精(AI)の導入を！

畜産経営におけるパソコン活用について

パソコンが農業分野で活用されてから 10 年以上が経過しましたが、様々な場面で今やパソコンは農具の一つとして定着しつつあります。今回は畜産経営におけるパソコンの活用について記述しました。

(1)パソコン簿記による経営管理

パソコンといえば、税務申告時に用いる簿記ソフトが思い浮かびます。

最初の設定さえすれば、難しい経理知識を知らなくても複式簿記の記帳が省力的に出来、記帳ミスも大幅に減らすことができます。

また、記帳データを使った経営分析機能も充実してきていますので、税務申告から一歩進んで、経営についてじっくりと分析することもお勧めします。

(2)表計算ソフト（Excel 等）を活用した飼料給与設計、生産管理

家畜の生産管理や飼料給与設計など複雑な計算を必要とする作業では、パソコンが大きな威力を発揮します。専用ソフトも市販されていますが、表計算ソフトの良いところは、自分で工夫しながら使い易いように改良できることです。

インターネット上にも生産者や指導者が作成したものが公開されていますので、これらを参考（著作権に留意の上）に農場専用の生産管理ソフト作成にチャレンジしてみてもはいかがでしょうか。

(3)インターネットを活用した情報収集・発信

携帯端末等も含めたインターネットの普及率は、2002 年 12 月時点で 54.5%(総務省調べ)と 2 人に 1 人がインターネットを利用している計算になります。

畜産分野においても様々な情報がネット上で提供されるようになってきました。

畜産分野の代表的なサイトとしては、「畜産情報ネットワーク LIN」

(<http://www.lin.go.jp/>、携帯版 <http://m.lin.go.jp/>) があり、ここでは畜産の経営や技術、消費者向けなどの幅広い情報が提供されています。

また、「とちぎアグリネット」(<http://agrinet.pref.tochigi.jp/>) では、栃木県内の農業・農村・食に関する様々な情報が提供されており、経営に有益な情報を迅速に入手することが出来ます。

一方、情報の発信では農産物のトレーサビリティ対応の観点から、生産者自らが経営内容や生産情報を積極的にホームページ上で公開し、他との優位性を図ろうという試みも増えてきています。

この他にも、様々なところでパソコンが活用されているかと思いますが、なんといっても最後に頼りになるのは経営者の判断力なのかもしれません。



とちぎアグリネットのトップページ

堆肥の塩類問題について

平成 16 年 11 月から家畜排せつ物法が本格施行され、これからは堆肥の流通がますます重要になってきます。その流通を妨げる一つの要因が堆肥の塩類過剰問題です。耕種農家の方の多くは塩類が少ない堆肥を求めています。これは塩類が過剰な堆肥を多く施用しますと、作物が生育障害を起こす場合があるからです。では堆肥の塩類はどのように蓄積されるのでしょうか。

現在、試験場では毎月 1 回堆肥に定量のふんを加え続けると、塩類がどのように堆肥に蓄積されるかを調査しています。図 1 は現在(9 ヶ月目)までの EC (電気伝導度)の値を示し、ふんを加えるにつれて上昇してきました。図 2 は、この調査を 2 年間継続した場合の加里の蓄積をシミュレーションしたもので、分量はふんを加えるたびに増加しますが、同時に全体量も増加しますので濃度(乾物%)はある一定の値でほぼ安定すると推測されます。図 3 の現在(6 ヶ月目)までの加里の実測値を見ても、濃度は最初は増加しますが、ふんを加え続けるとやはり濃度は上昇しにくくなると考えられます。

従って、現在までの結果では実際に堆肥にふんを戻し続けても、分量は増加しますが濃度はある一定の値でほぼ安定すると考えられます。今後はさらに研究を続けて塩類の蓄積のメカニズムを明らかにしたいと考えております。

EC：土壌中のイオン（塩類）を電氣的に測定した濃度



左：塩類集積試験区、右：対照区

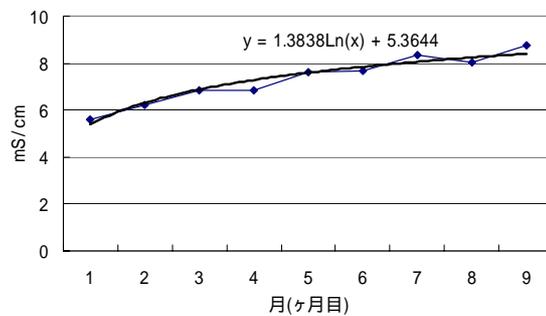


図1 EC

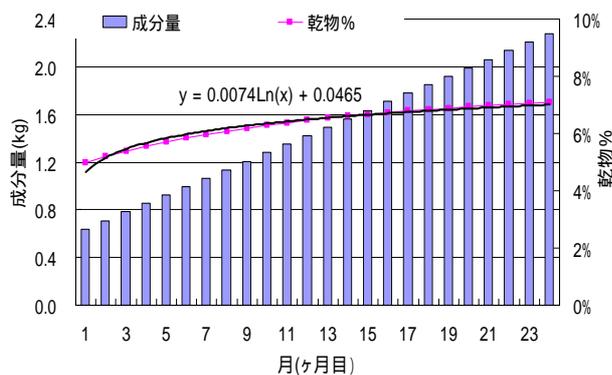


図2 加里(シミュレーション)

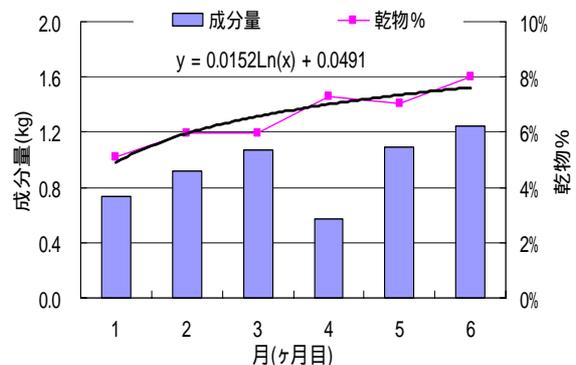


図3 加里(実測値)

(畜産環境研究室 福島正人)

豚人工授精(AI)の導入を！

養豚農家の皆さんが人工授精を取り入れるにあたっての心配事は何でしょうか？ 技術的な問題 新たに器具を揃えなければならない 受胎率が悪く、産子数も少なくなってしまうのではないかなどなどいくつか挙げられると思います。しかし、人工授精に取り組むにあたり必要な器具、器材を揃え、技術も一度覚えれば、それほど難しいものではありません。繁殖作業の省力化、疾病の蔓延防止、生産コストの低減などメリットは多く、ぜひ人工授精を導入して欲しいと思います。さらに、繁殖成績について重要なのは、自然交配をする場合と同様に毎日の発情観察によってしっかりと授精適期を見つけることであり、それにより自然交配と同程度もしくはそれ以上の受胎率、産子数を得ることができます。

畜産試験場では、人工授精の普及を図るためにランドレース、大ヨークシャー、デュロック種の精液の配付を行っています。さらに、毎年多くの方に実践的な人工授精の技術を修得してもらおうと、講習会を開いています。今年も以下の日程で講習会を行う予定ですので興味のある方は、ぜひ受講してみたいはいかがでしょうか。



昨年度の講習会風景

平成16年度 豚人工授精技術講習会

講義：平成17年2月10日(木) 10:00～12:00

実習：第1班 平成17年2月14日(月)～18日(金) 13:00～15:00

第2班 平成17年2月21日(月)～25日(金) 13:00～15:00

申込方法：受講申込書を住所地の市町村に提出してください

(申込書は市役所、町村役場にありますが、御不明の点は市町村、
農業振興事務所、家畜保健衛生所または畜産試験場に照会ください)

申込締切日：平成17年1月31日(月)

(中小家畜研究室 齋藤俊哉)



畜産試験場だより No.30

平成17年1月24日 発行

栃木県畜産試験場

〒321-3303

芳賀郡芳賀町稲毛田 1917 028-677-0301

e-mail chikusan-s@pref.tochigi.jp